

自然再生を実施している箇所は2m程河床が低下している。潮位が上がるとガタが堆積するが、今後自然再生をどのように展開するのか

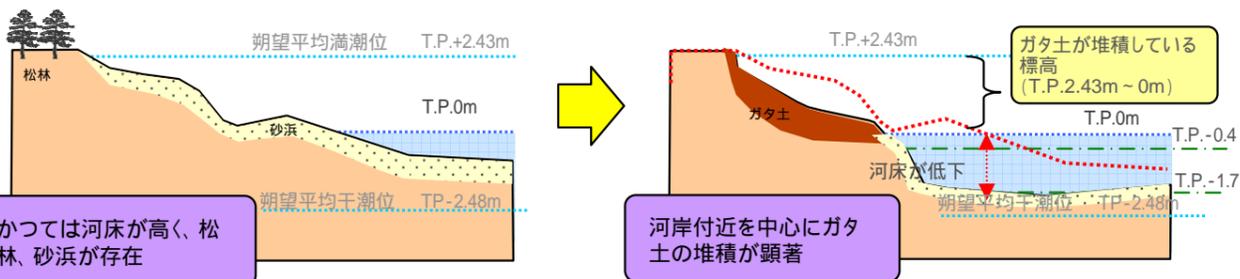
ヤマトシジミ漁が行われ、地域住民の憩いの場であった砂浜環境の復元・再生を目指し、自然再生事業を実施  
自然再生事業は試験施工として、養浜を実施するとともに透過水制を設置。河岸付近にはガタ土が堆積しておりムツゴロウやトビハゼなどが生息し、砂地が再生された場では、ヤマトシジミやコメツキガニ等を確認  
今後、試験施工を継続するとともに、施工後の状況をモニタリングし、砂浜等での多様な環境の創出等に努める

自然再生事業の概要

菊池川の下流域には、かつて広大な砂浜が広がり、地域住民の憩いの場となるとともにヤマトシジミが数多く生息するなど良好な河川環境を有していた。しかし現在では、河床低下とこれに伴うガタ土の堆積により砂浜は減少し、ヤマトシジミも大幅に減少  
砂浜を復元し、かつての自然・河川環境を再生し、地域住民の憩いの場となるよう平成18年度から自然再生事業を実施。具体的方策は学識者(河川工学、河川生態学、シジミ生態等)、漁業関係者、地元自治体で構成された「菊池川下流地区自然再生委員会」を平成18年9月に設置し検討。  
自然再生委員会での検討結果を踏まえ、平成18年度より試験施工として、養浜等を実施

昭和30年代

近年



かつては河床が高く、松林、砂浜が存在

河岸付近を中心にガタ土の堆積が顕著

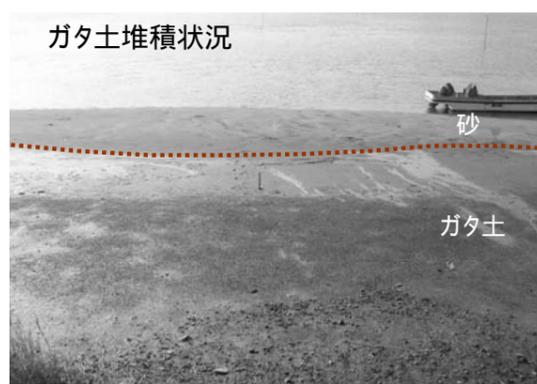


試験施工箇所



砂浜の利用状況

出典：ふるさと玉名写真集 (発行：ふるさと玉名写真集発行実行委員会)

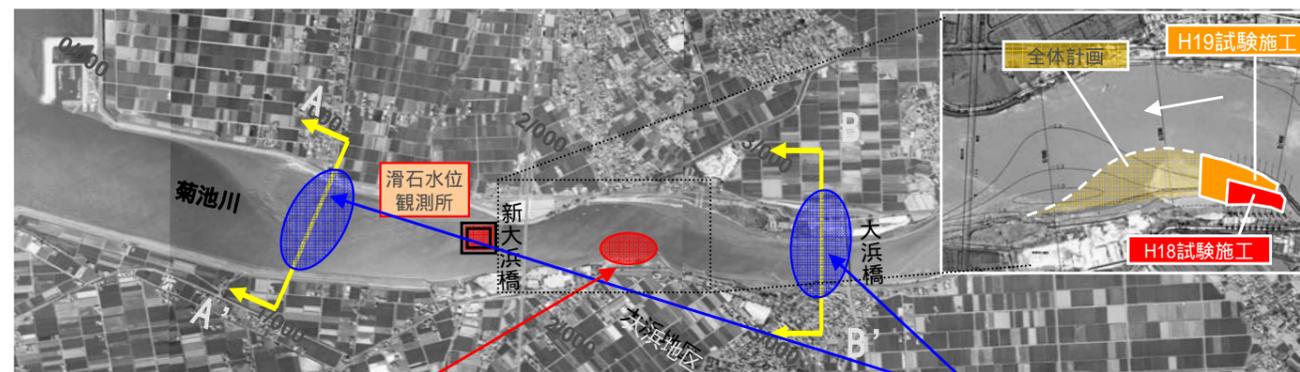


ガタ土堆積状況

試験施工の状況

- 試験施工は次のとおり実施。
  - ・周辺の砂浜の状況から概ねT.P.-0.4m ~ -1.7m高さで砂浜を再生することを目標
  - ・段階的に整備を進めるため、H18は河岸付近(概ねT.P.-0.4m以上)に養浜を実施
  - ・ガタ土の定着化を防ぐために透過水制を設置
  - ・H19はさらに川側に養浜を実施

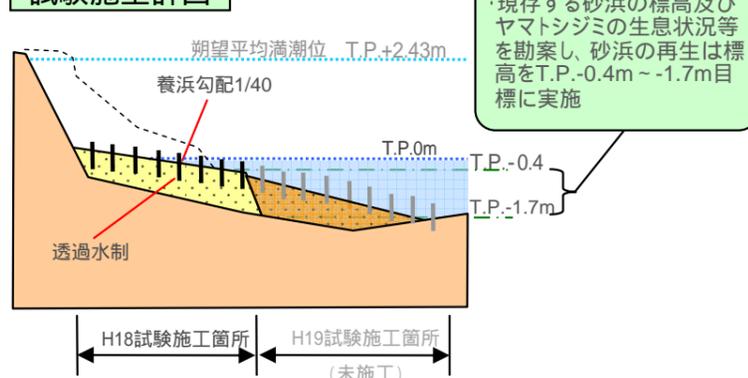
試験施工の結果、河岸付近にガタ土が堆積されるものの洪水ではフラッシュされる可能性が高い。概ねT.P.0m以下には砂浜が現存。ガタ土にはムツゴロウやトビハゼを確認。砂浜にはヤマトシジミやコメツキガニを確認



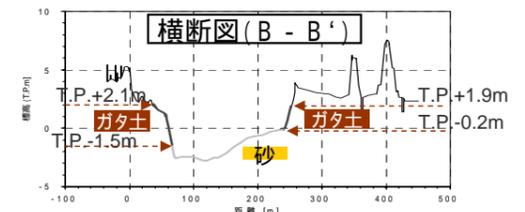
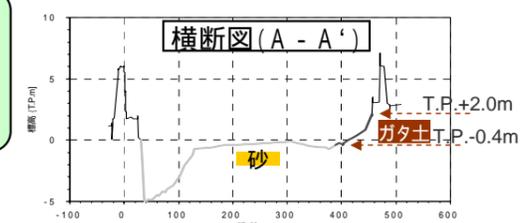
試験施工箇所

砂浜残存箇所

試験施工計画

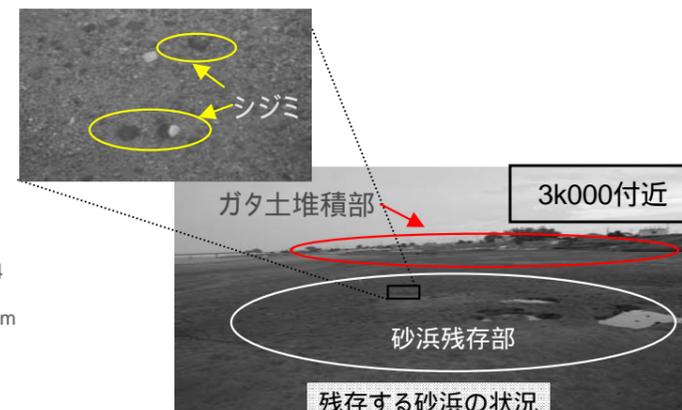
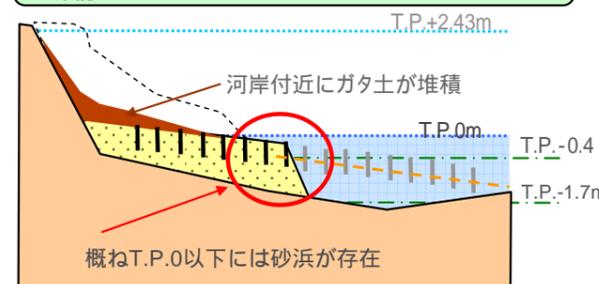


現存する砂浜の標高及びヤマトシジミの生息状況等を助案し、砂浜の再生は標高をT.P.-0.4m ~ -1.7m目標に実施



H18試験施工後の現在の状況

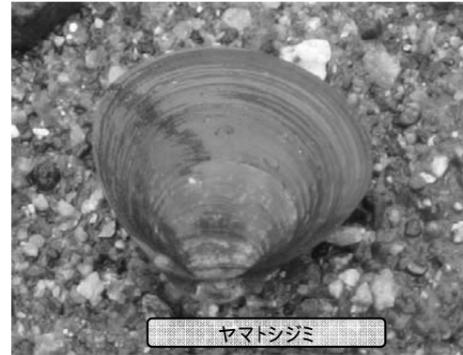
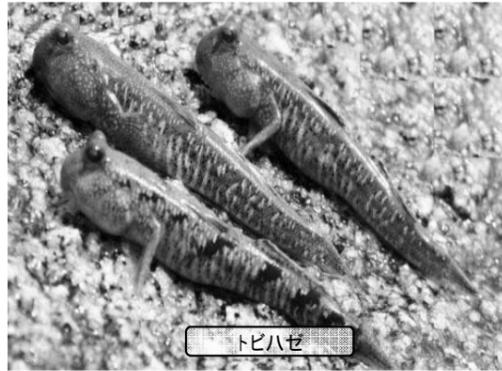
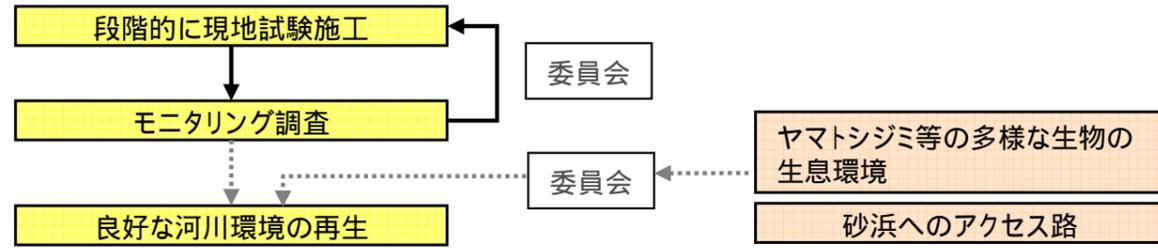
河岸付近にガタ土が堆積。ムツゴロウやトビハゼを確認  
概ねT.P.0m以下には砂浜が存在。砂地にヤマトシジミ等を確認



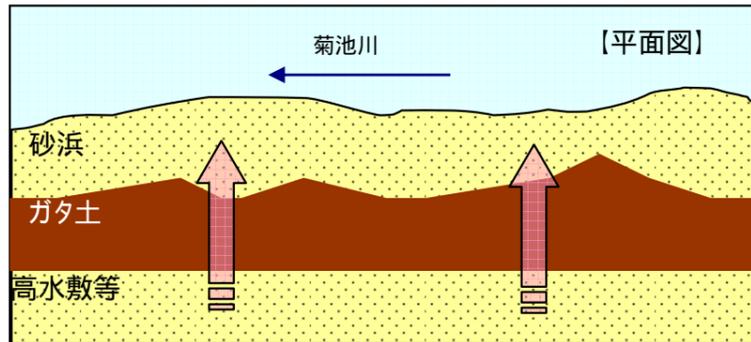
残存する砂浜の状況

今後の対応

試験施工を引き続き実施（養浜を概ねT.P.-0.4m以下で実施）するとともに、施工後の状況について継続的にモニタリングを実施  
 モニタリング結果を踏まえ、砂浜等での多様な生息環境の創出を図るとともに、砂浜へのアプローチなど今後の利活用の促進を図る



利活用を考慮した対応



環境学習など利活用に配慮し、砂浜までのアクセス路を確保するための方策の検討を行う。

